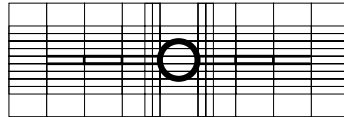
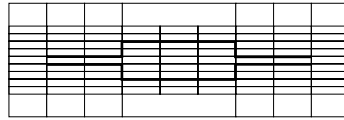


■駅舎・鉄道路線

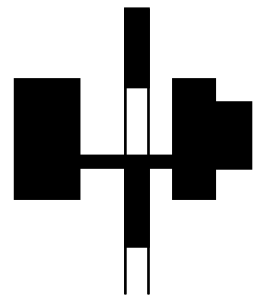
○広域案内図

下記の割り出し図によって作図します。



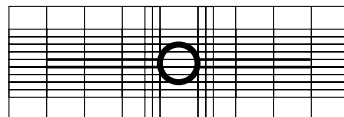
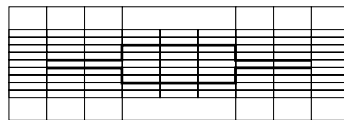
○地区・街区案内図

駅舎の図は、建物外形を表示し、
路線は全市案内図の線を使用し
ます。

■地下鉄駅・地下鉄路線
路面電車

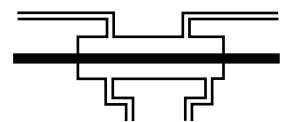
○広域案内図

下記の割り出し図によって作図します。



○地区・街区案内図

駅舎の図は、建物外形と出入口とを線
によって表示します。



■一般道路

○広域・地区案内図

何種類かの線で道路を表示します。



○街区案内図

車道・歩道を含めて線形を表示します。
(歩道の区別は必要であれば行います)

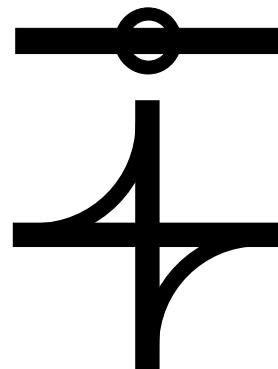


■有料道路

・インターチェンジ

○広域案内図

下記の割り出し図によって作図します。



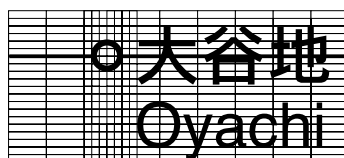
○地区・街区案内図

インターチェンジ外形を表示します。

■バス停・バス路線

○地区案内図

下記の割り出し図によって作図します。

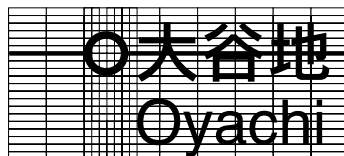


和文天地8mm 英文天地6mm



○街区案内図

下記の割り出し図によって作図します。



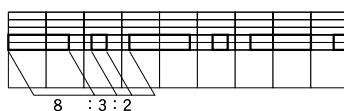
和文天地8mm 英文天地6mm



■地域区分線

(この線の色彩は地域区分を表す文字と同じにすること)

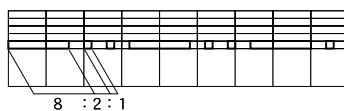
○市境界線（一点破線 太）



8 : 3 : 2



○区境界線（二点破線）



8 : 2 : 1



○町境界線（一点破線 細）



5 : 2 : 1



本体の基準

4-5⁻¹

■サイン本体のモジュール

サインをシステムで展開するときには、サインの大きさがバラバラにならないように、基本的な大きさを設定します。大きさの基本になるのは、人の視界が限られているため、案内図の場合は一般的には900角の大きさが見やすい大きさです。また、製作の経済性の点からも効率的な大きさといえます。

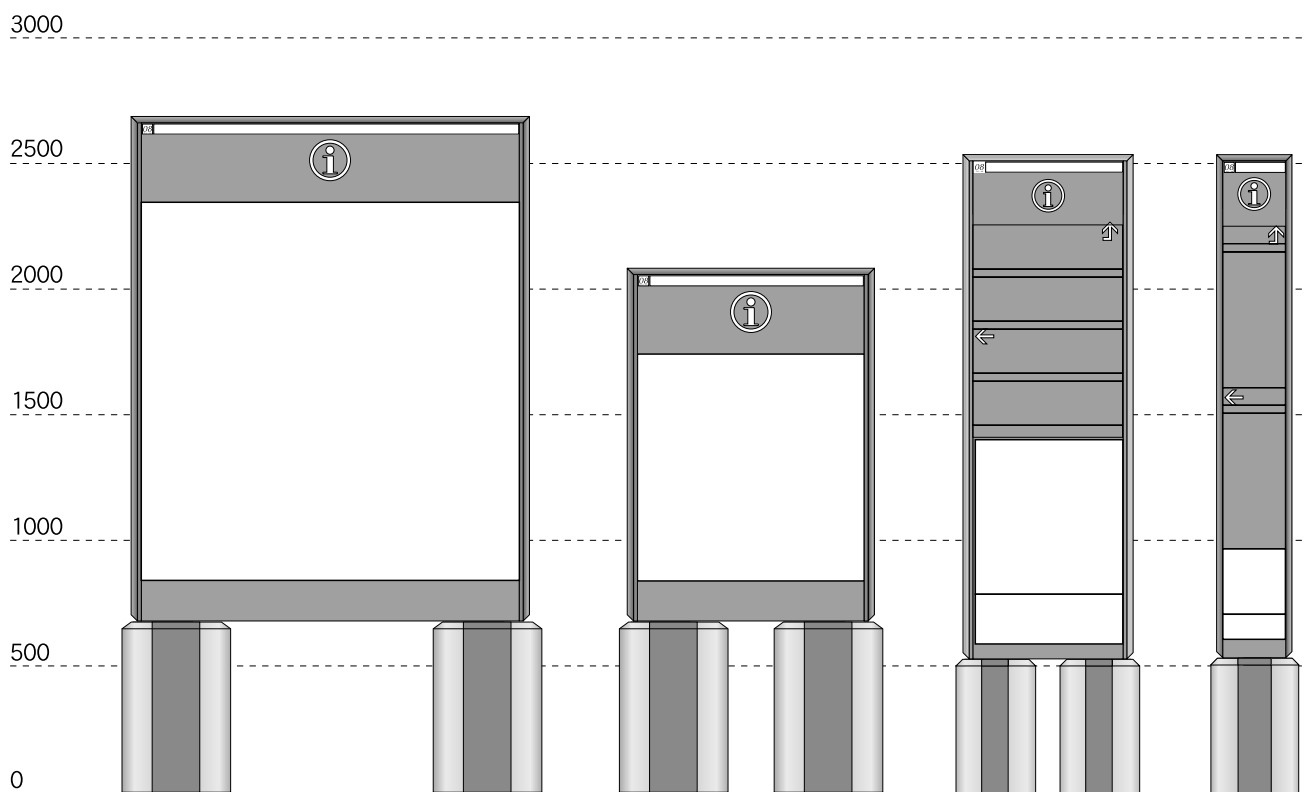
この900角を中間にして+600と-300の増減した大きさをサインのバリエーションとして展開します。

■サイン本体の基準

サイン「本体」は、札幌市が積雪寒冷地であるために、脚部の耐久性を高くしなければなりません。素材は耐久素材としてコンクリート、鋳物、ステンレス等が適当です。

「表示面」では、「本体」と表示板が分割された構造にし、情報更新を容易に行えるようにします。また、「本体」の塗装などの仕上げでは、最終塗装として貼り紙防止塗装を行います。さらに「表示面」の保護としてフィルム等によって損傷や汚れ防止をします。

札幌市の案内・誘導サインには、iマークと黄色のラインをサイン上部に表示して、サインの存在を明確にすることを基本とします。



■使用書体

誘導サインでは、遠方からの視認性を高めるため、和文をゴナ体の太字とします。

数字、欧文、その他の外国語の使用書体は、和文のゴナ体に合わせて以下の通りとします。

■和文

ゴナB正体

字詰め 字送りベタ

時計台

■数字

ヘルベチカ

250m

■欧文

ヘルベチカローボールド

字詰め ノーマルター-spacing

単語間 ノーマル

Clock Tower

■その他の外国語

韓国語

ハングル文字太ゴシック体

시계탑

■その他の外国語

中国語

中文石井太ゴシック体

钟楼

（注）中国語や韓国語は、併記される英文と全く同じ文字高に揃えると、文字が英文よりも大きく見えてしまいます。このため、文字の大きさが同じに見えるように視覚的な補正を行い、文字の高さを調整する必要があります。

表示基本要素

■文字天地

和文：50mm以上

誘導サインの和文の文字天地は、遠方からの視認性を考慮し、最低50mmに設定します。

ただし、公園や広場などでは表示面が高い位置になるため、文字天地は最低70mmに設定します。

■2ヶ国語の場合

□誘導対象が一つの場合



□誘導対象が二つの場合



上記の比率は基本であり、文字の大きさによって行間や文字天地を調整する必要があります。

■ 4ヶ国語の場合

□ 誘導対象が一つの場合

a	時計台	0.54a	0.42a
0.3a	和文	250m	距離
a/2	Clock Tower	欧文	
0.3a	시계탑	その他の外国語	
0.3a	钟楼	その他の外国語	
a/2			

□ 誘導対象が二つの場合

a	時計台	0.54a	0.42a
0.3a	和文	250m	距離
a/2	Clock Tower	欧文	
0.3a	시계탑	その他の外国語	
0.3a	钟楼	その他の外国語	
a/2			
0.8a			
a	市役所	0.54a	0.42a
0.3a	和文	150m	距離
a/2	City Hall	欧文	
0.3a	시청	その他の外国語	
0.3a	市政府	その他の外国語	
a/2			

上記の比率は基本であり、文字の大きさによって行間や文字天地を調整することが必要です。

■ 行合わせ

□ 頭合わせ

□ 末尾合わせ

時計台
Clock Tower

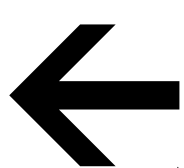
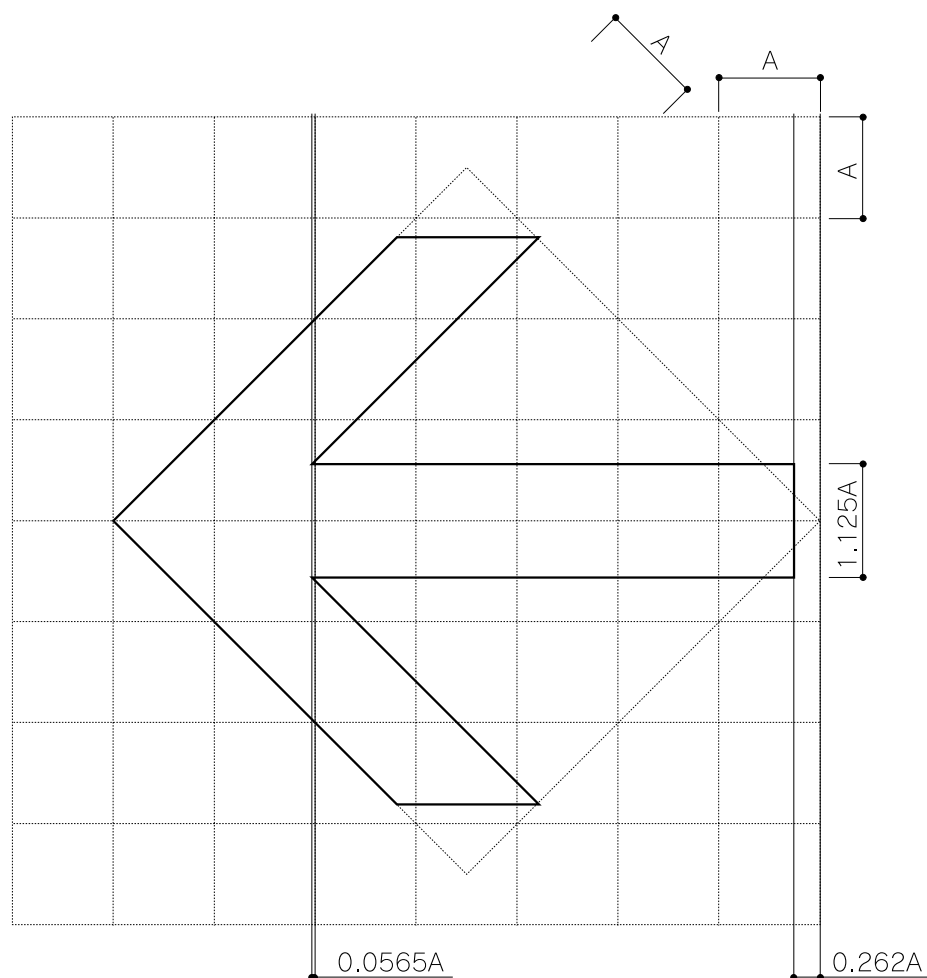
時計台
Clock Tower

文字合わせは、頭合わせ、末尾合わせを使用します。

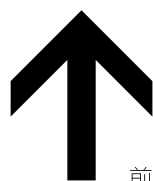
5-2⁻¹

矢印

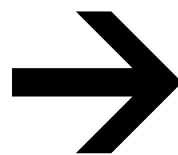
■ 矢 印



左



前方



右



階段を上



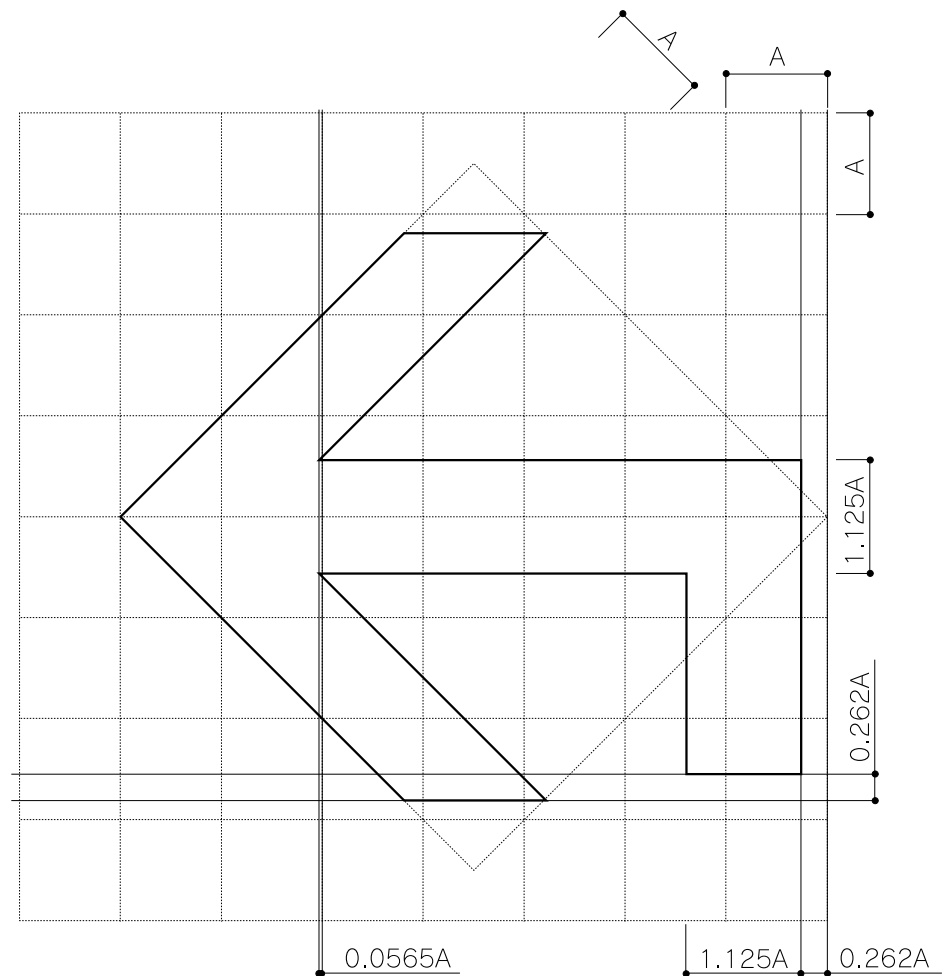
階段を下



下向きは使わない

矢印は縦横方向を示すことを基本とし、斜め方向は階段など高低のある場所を指すために用いることとします。なお下向きは利用者の混乱を避けるために原則として使用しません。

■分岐点手前の矢印



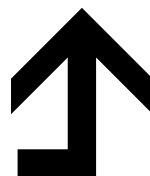
前方左



前方右



左に行って前方



右に行って前方



下向きは使わない

サインを分岐点の手前に設置しなければならない場合は、矢印を縦方向の左右と横方向の前方を示します。なお横方向の下向きは利用者の混乱を避けるために原則として使用しません。

情報掲載基準

■情報掲載基準

誘導する対象施設が多すぎると見逃す要因となるため、記載内容はなるべく簡略化し、誘導先を5ヶ所までとします。

施設が集中している場合には、まずその地域や地区名を記載し、誘導対象を少なくします。その後、地域や地区内において個々の施設を誘導します。

また標準案内用図記号（P 28参照）を効果的に使用します。

項目		名称の表示
交通機関	鉄道	鉄道・地下鉄・市電などの交通の路線名/駅
	バス	バスターミナル/バス停
	空路	空港
公共施設	公園	街区公園より大規模な公園
	公共施設	主要な公共施設
	警察署	警察署
	郵便局	普通郵便局
	教育施設	小学校・中学校・高等学校・大学・短期大学・研究所
	医療施設	総合病院・大学病院・公立病院
公共的施設	文化的施設	図書館・美術館・博物館・劇場・ホール・動物園・植物園・遊園地など
	史跡名勝	国又は自治体の指定する文化財・史跡 名勝として重要な神社・寺院・教会等
	地下街	（ビルの地下街は除く）
民間施設	商業施設	移動の手がかりとして必要な場合は、一種または二種大規模小売店舗名を掲載する
	団地	行動の手がかりとなる団地名称は掲載する
	その他	広範囲にわたり視認可能な高さを有する施設 道路の結節点に位置し、地点認識に有効と考えられる施設
地名	地名	地域名や地区名

■使用書体

記名サインの書体は、誘導サインと同様に、遠方からの視認性に考慮し、「ゴナ体」の太字を基本とします。

ただし、記名サインのデザインは、施設のイメージや周辺環境と調和することも重要な要素となることから、サインのデザインコンセプトに合わせた書体を使用することを可能とします。

■文字天地

記名サインは、利用者の視認距離等を考慮し、和文の文字天地を最低120mm に設定します。

外国語の併記は、下図の割付とします。

□2ヶ国語表記



□4ヶ国語表記



■行合わせ

□頭合わせ

手稲区役所
Teine Ward Office

□センター合わせ

手稲区役所
Teine Ward Office

□末尾合わせ

手稲区役所
Teine Ward Office

6-2⁻¹

規制サイン

規制サインは、その存在を明らかにするため、できるだけ人の視線の高さに表示するようにし、情報を的確に伝えるために、標準案内用図記号と和文・英文の2ヶ国語表記を基本にします。

■使用書体

使用書体・文字天地は、誘導サインに準じ、書体を「ゴナ体」の太字、和文の文字天地を最低50mm（敷地・集客規模が大きな施設では最低70mm）に設定します。

■割付け図（例）



■サインの照明設計

サインの照明設計では、夜間においてもサインの表示情報が必要な場合に限り、照明器具を設置します。

照明設計では、表示情報を読みとれる明るさと、地図面の色彩が正しく見える光源の設定をします。

○明るさ（照度）

夜間の屋外において、サインの存在を認識できる明るさと表示情報を読みとるための照明の照度を設定します。

○光源の色温度

光には色味があり、炎の色と温度の関係と同様に、赤っぽい光は色温度が低く、青っぽい光は色温度が高くなります。

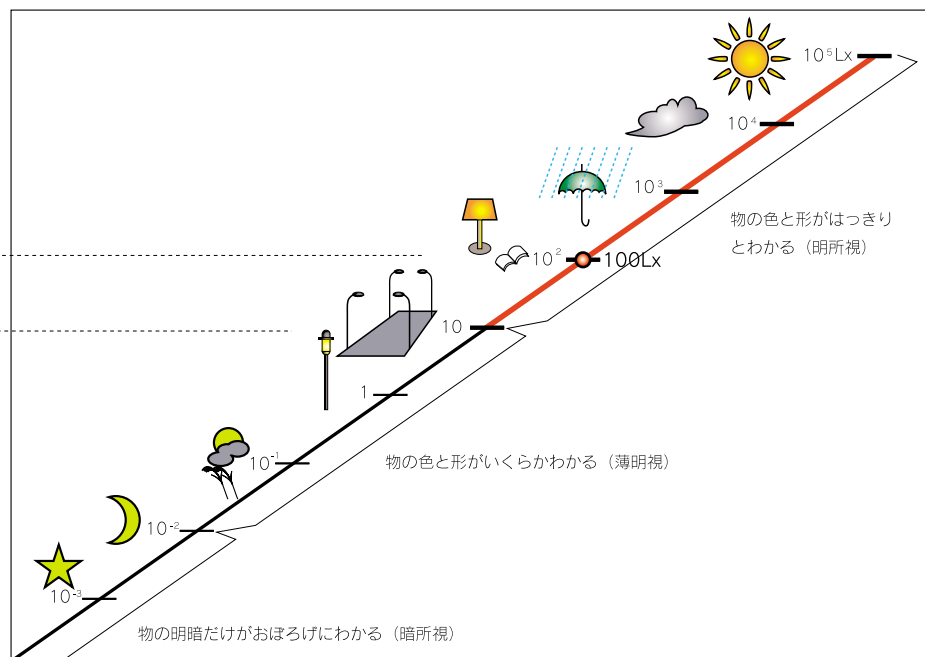
■視認性と明るさ

形と色を判読できる最低限の明るさ（明所視）は、10Lxです。しかし、サインの表示情報は文字情報であるために、さらに明るい環境でなければ判読することができません。

特に案内サインの表示情報を判読可能にするためには、最低100Lxの照度が必要となり、これに満たない環境では照明器具を設置します。

□視覚の働きを得る明るさ（照度）の範囲-1（照明学会1979）

- 100Lxの景色
 - バスターミナル
 - 一般的な地下連絡通路
- 10Lxの景色
 - 駅前広場・市街地



参考図書：色覚と色覚異常
東京医科大学名誉教授 太田安雄
前東京医科大学講師 清水 金郎共著

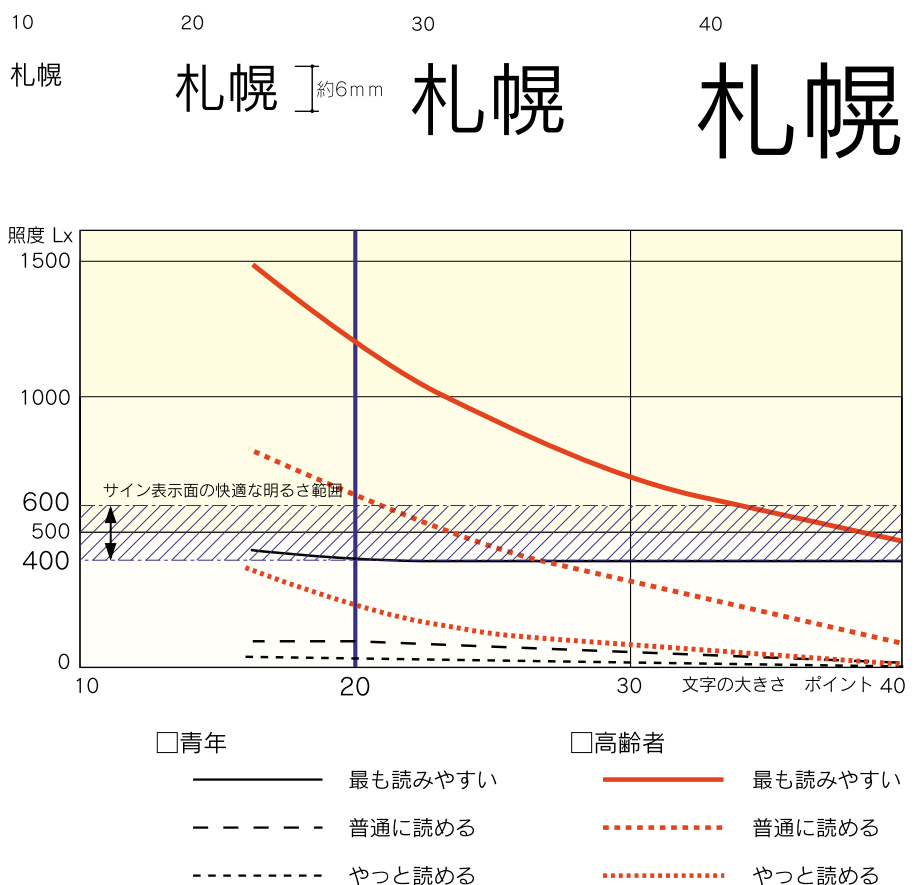
照明の明るさ

■視認性と明るさ 2

文字の読みやすい明るさは、小さい文字ほど明るさが求められます。案内サインの最低文字高は6mmですから、20ポイントの文字を指標とすると、高齢者が最も判読しやすい照度は1200Lxが必要となります。しかし、高い照度にすることは、見やすさを損なうグレア（反射等による眩しさ）を引き起こす可能性があります。このためサイン表示面の照度は、周辺環境等への影響も考慮して400～600Lxに設定し、眩しさを発生さないために、複数の照明器具の設置と器具の位置に配慮しなければなりません。

□高齢者と青年の視力

視力の実験では、10・20・30・40ポイントの文字を比較しています。



※上図のデータは、視距離1mでの高齢者と青年の文字の読みやすさと明るさの関係
使用視標は白地に黒文字

参考図書：サイン環境のユニバーサルデザイン

学芸出版社 田中直人、岩田三千子 共著

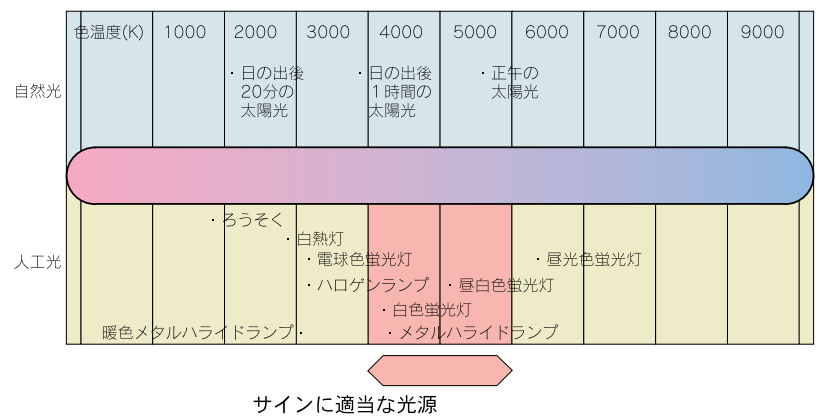
■光源の色温度

光の色は、赤味・白・青味などの様々に変化しますが、その光の色味の尺度を色温度（単位 K：ケルビン）で表します。例えば、電球の色は約 3,000 K で、青空からの反射光を含む昼光は約 6,500 K です。

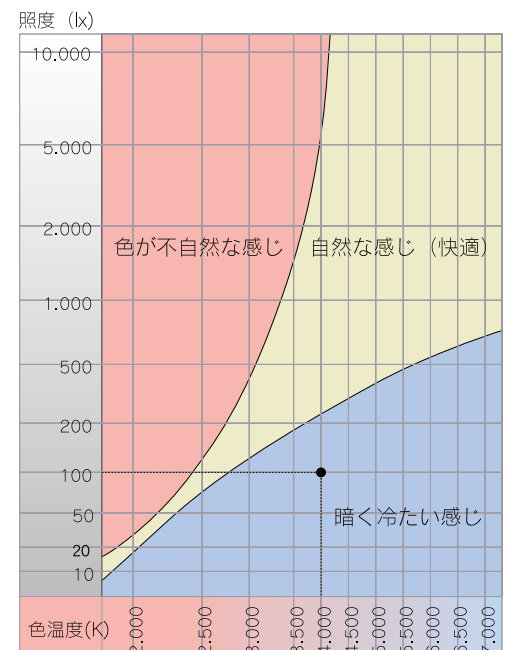
照明の光源には、様々な種類があり、ランプによって各々色温度が異なります。サインの光源には、表示面の色合いが正しく見えるよう、太陽光よりもやや色温度の低い昼光色蛍光灯・白色蛍光灯が適しています。

ただし、照明はその場の雰囲気づくりにも欠かせない要素でもあり、暖かみのある演出をする場合には、色温度の低い設定で「表示面」の照度や色彩を計画することにも必要になります。

□自然光と人工光の光色



□色温度と照度の関係



参考図書：照明デザイン入門
中島龍興・近田玲子・面出 薫共著

照明の実施例

■実施例



□案内サイン サッポロファクトリー



□案内サイン 新札幌



□誘導サイン 札幌ドーム 舗道照明



□案内サイン 札幌ドーム



□案内サイン 観光案内サイン iマーク発光

- 広域案内サインの設計手法
1. 全市域の情報を対象としましたが、対象物がない山間部は除外しました。地図の主な構成内容は、街の骨格が理解できるように地理的な特徴である藻岩山をはじめとする山間部の地形を分かりやすく表現し、移動のための主要交通網と、主要施設を表示しました。
 2. 地図の向きは、利用者の混乱を防ぐため方位よりも設置位置の道路軸の向きを優先させました。
 3. 山間部の地形は単なる色彩の使い分けでなく山並みが理解できるように立体グラフィック処理をしました。
 4. 札幌市内の移動交通体系は、地下鉄・市電・JR・バスとなるため、道路情報は、主要道路に留め、歩行者を中心とした公共交通網の表示をしました。
 5. 情報検索をしやすくするため、地図を4分割し、各エリアの主要施設名を、地図外の各エリアの施設リストにも表示しました。
 6. 文字情報は、地図内の施設名は2ヶ国語（日本語・英語）とし、各エリアの施設リストにおいては集客性の高い順に4ヶ国語（日本語・英語・中国語・韓国語）表記としました。
 7. 構成例

Dエリア地図		Bエリア地図		Eエリア 定山溪地区 地図
Cエリア地図		Aエリア地図		Dエリア 施設リスト
				Eエリア 施設リスト
Aエリア 施設リスト	Bエリア 施設リスト	Cエリア 施設リスト	凡例リスト	

■広域案内サイン例（表示面）



案内サイン 8-1⁻³

■広域案内サイン例（本体）





案内サイン

- 地区案内サインの設計手法
1. 地図の主な構成内容は、街の骨格が理解できるように、地理的な特徴であるや河川などをはじめとする地形を分かりやすく表現しました。
 2. 地図の向きは、利用者の混乱を防ぐため、方位よりも設置位置の道路軸の向きを優先させました。
 3. 山間部の地形は単なる色彩の使い分けでなく山並みが理解できるように配色しました。
 4. 公共交通体系は、ＪＲ・バス（地下鉄・市電）を表示し、道路情報は公道全てを表示しました。
また、地図外には、市内全域との交通アクセスが分かりやすいように、ＪＲ、及び地下鉄・市電の全路線図を表示しました。
 5. 主要施設名を地図外のリストにも表示しました。
 6. 区の境界は色分けをしました。
 7. 文字情報は、主要施設名を４ヶ国語（日本語・英語・中国語・韓国語）表記し、その他は集客性の序列順に２ヶ国語（日本語・英語）、日本語のみを表示しました。

８．構成例

区の地図	施設リスト
	現在地周辺の街区地図
凡例リスト	公共交通地図